

# Imadoki

2026  
January 01  
vol.129



写真は、私も参加した前回の御遷宮行事（お白石持ち）の様子です、今年の5月から2034年の御遷宮本番まで伊勢は徐々に盛り上がっていきます。

## 明けましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。旧年中はコムデックをご愛顧いただき、誠にありがとうございました。2025年は生成AIの普及が一層進み、中小企業にとって「AIをどう活用していくか」がより現実的なテーマになった一年でした。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

コムデックでは昨年、自社の業務にAIを積極的に取り入れたことで、社内の生産性向上を強く実感する一年となりました。なかでも、クラウドPBXとkintoneを連携し、電話の通話内容をAIが自動で文字起こし・要約する仕組みを導入したこと、対応履歴の記録精度が向上し、担当者間の引き継ぎもスムーズになりました。また、オンライン会議の議事録についても、AIが要点をまとめてチームへ自動共有するフローを整え、会議後の振り返りやタスク整理がスムーズになりました。こうした取り組みにより、スタッフがより価値ある業務に集中できる体制が整いつつあります。

AIの進化は今年、これまで以上の速度で確実に加速します。AIは便利なツールの域を超え、経営判断や業務設計そのものに大きな影響を与え始めています。経営者の皆さまがこの成長スピードを取り入れ、新たな経営の形をつくるために、コムデックがお手伝いしてまいります。

そして今年『コムデック万博』は、「経営×AI」をテーマに6月26日(金)に開催することが決定いたしました。昨年とはまったく異なる視点でAIの未来が語られることがすでに予想されるほど、技術の進化は加速しています。最新の知識や活用のヒントを得ていただける貴重な機会ですので、ぜひ多くの皆さまにご参加いただければ幸いです。

伊勢は今年から20年に一度の式年遷宮に向けた「お木曳行事」がはじまります。地域が大きな節目を迎えるこの特別な年に、私たちコムデックも変化を恐れず、新たな価値をお届けできる一年にしたいと考えております。



代表取締役社長 生田 智之



## STEP 03 NotebookLMの チャット設定をカスタマイズする

さらに「チャット設定」からチャットでの回答をカスタマイズして、配食サービス立ち上げのコンサルタントとして、回答するように指示します。

これで準備は完了です。ここまで設定の時間は15分程度です。

## STEP 04 NotebookLMにチャット経由で質問する

次にチャット経由で質問をしましょう。

「三重県伊勢市の人団動態や高齢化率から推測される、今後のリスクについて、当該地域でビジネスを行っている経営者に向けて注意すべき点を3つ、優先順位とその理由を添えて教えてください。ちなみに地域密着型のBtoCのビジネスをしています。」

それについて、150字文字以内での回答を求める結果が右記の通りです。

「伊勢市は、①人口減少と急速な高齢化（2050年42.7%予測）による顧客市場の縮小・転換、②若年層の県外転出超過による人材確保の困難、③空き家増加や公共交通利便性低下に伴う地域インフラの弱体化という構造的なリスクに直面しています。」

この回答から、さらに世帯数の変化など、気になつたことについて質問をすれば、全て回答をしてくれます。

そして次に、新規事業である配食サービスの成否について確認してみましょう。

地域密着型の配食サービスは、成功の可能性が非常に高いです。

理由：伊勢市は高齢化率が32.8%を超え、生活支援サービスとしての配食需要が市や地域包括支援センターの計画で不可欠とされています。この追い風に乗るには、大手との価格競争を避け、安否確認を伴う「見守り機能」と高齢者に特化した「個別栄養対応・嚥下調整食」を提供し、かつ「配送ルート最適化」でコスト効率を確保することが成否の鍵となります。

さらに深く知りたい場合は、質問を繰り返すだけで、公的なデータに基づいた回答を得ることができます。これまででは人口動態などのデータを収集しても、それを自社のビジネスにどう活用するかで思考が停止してしまうことが多かったと思います。AIは、複合的なデータを組み合わせて、必要な回答だけを提示することができます。

## STEP 05 NotebookLMでレポートを作成する

次に新規事業について、データに基づいた企画書を作成し、幹部と打ち合わせをしたいと考えたとしましょう。NotebookLMの右側にある「Studio」機能の中から「レポート」を選択します。「独自で作成」を選択し、どんなレポートを作成したいかを記載します。

レポートが作成されたら、それをコピーします。

生成

## STEP 06 Gammaで資料化する

次に資料生成AIであるGammaを立ち上げます。

「+新規作成(AI)」というメニューを選択します。「テキストを貼り付ける」を選択し、NotebookLMでコピーしたレポートを貼り付けます。いくつかの設定を行い、「生成」すると、3分後には企画書が完成します。経営会議で打ち合わせるには、十分の資料です。

今回は2026年に向けて意識すべき3つのポイントでも解説した「AI活用」を実践してみました。AIを活用することで、情報の収集から分析、資料化までは圧倒的に効率化します。大切なことは、その情報を活かして、自社独自の戦略を立案することや、リスクを読み込んだ会社の方向性を見出すことです。面倒な作業はAIで効率化し、重要な業務に時間を集中させること、それはAIを活用することで実現できます。

2026年の幕開けに向けて、会社の未来を創造すると同時に、AI活用による効果を体感してみてください！



AIによって作成された資料は  
コチラからダウンロードできます

